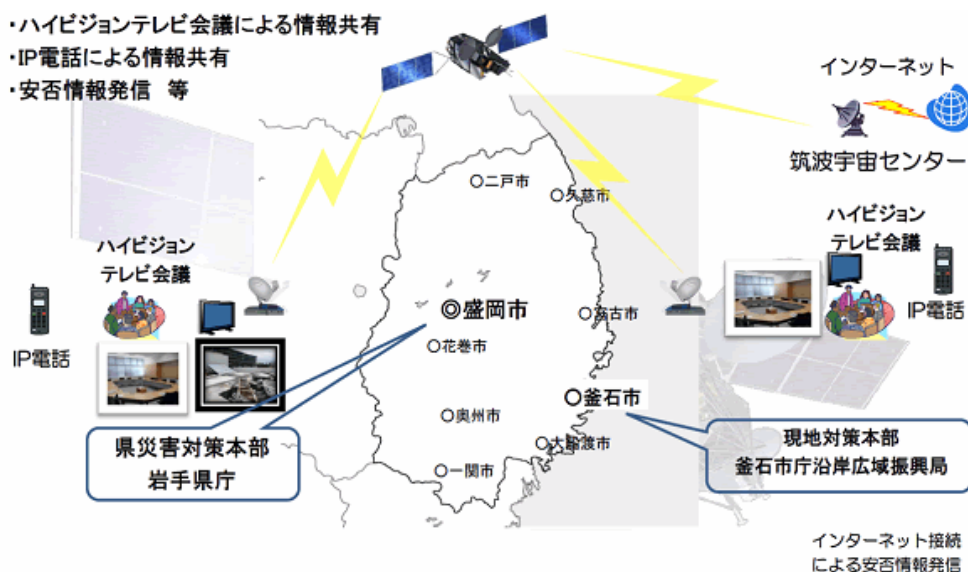


# 超高速インターネット衛星「きずな」 被災地にブロードバンド環境を構築

宇宙航空研究開発機構(JAXA)では、東北地方太平洋沖地震における災害対策支援として岩手県庁(災害対策本部)と釜石市(現地対策本部)に超高速インターネット衛星「きずな」を用いたブロードバンド環境を構築しました※。これにより被災地から災害情報の共有・発信にハイビジョンTV会議・IP電話・無線LANなどが利用されています。

※「きずな」用の可搬型地上アンテナ2式、テレビ電話会議システム2式、無線LAN4式等とともに、通信設備の設置・運用のための要員5名を岩手県に派遣しました。

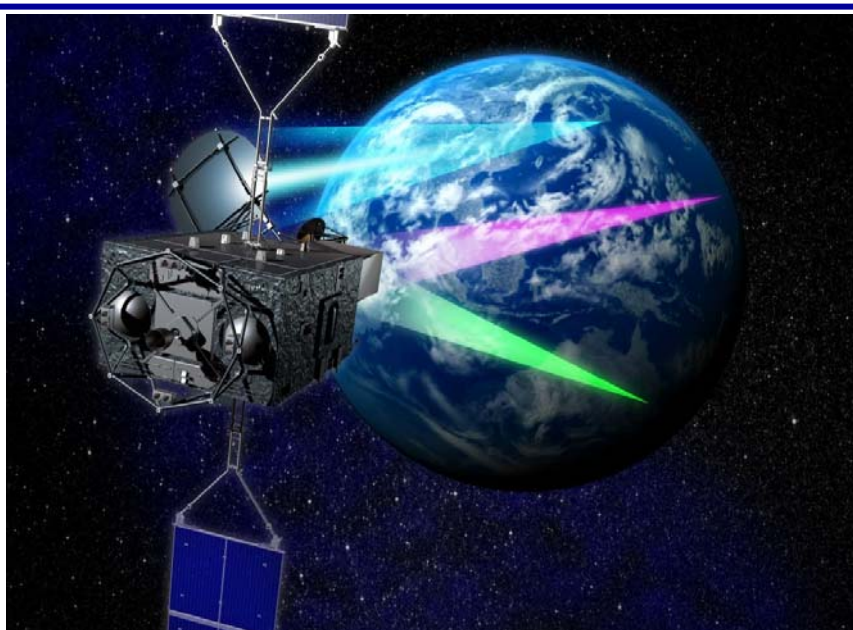


岩手県庁と釜石市沿岸広域振興局をつないでのテレビ電話会議の様子(岩手県庁側|3月20日)



岩手県庁展望室に設置された「きずな」地上アンテナ(3月18日)

3月20日より岩手県庁災害対策本部と釜石市の岩手県沿岸広域振興局(現地対策本部)及び筑波宇宙センターの3地点間で20Mbpsでの通信回線を確保しました。



## 超高速インターネット衛星「きずな」とは？！

2008年2月23日に打ち上げられた超高速インターネット衛星「きずな」は、地域による情報格差をなくし、誰もが平等に高速通信サービスを受けられる社会を実現するために、最大1.2 Gbpsの超高速でデータ通信を行うことができる人工衛星です。

「きずな」は、大がかりな地上設備を必要としません。一般家庭でも直径45cm程度の小型アンテナを設置すれば、最大155Mbpsの受信、また6Mbpsの送信ができます。また企業等では、直径5m級のアンテナを設置すれば、最大1.2Gbpsの超高速データ通信が可能です。

「きずな」が提供する大容量・高速データ通信を利用すれば「遠隔医療」や宇宙から災害情報を提供が可能となるなど、さまざまな分野での活用が期待されています。



2008年2月23日  
きずな(WINDS)

詳細は、「衛星利用ミッション本部」、または

JAXA きずな

で検索！